

授業科目	看護理論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	15	開講	前期	
科目目標	看護実践のための理論的根拠としての看護理論を学ぶ。									
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）			
1	看護理論の発展	看護の本質と看護理論の関係				講義	内部教員			
2		看護理論の種類				講義				
3	看護理論の発展に貢献した理論家	V. ヘンダーソン E. ペプロウ D. E. オレム C. ロイ				講義 個人・グループワーク				
4										
5	臨床に役立つ看護理論	1. ニード論（ヘンダーソン） 2. 人間関係論（ペプロウ） 3. セルフケア理論（オレム） 4. システム理論（ロイ）				講義 演習				
6										
7	臨床に役立つ看護理論	事例で学ぶ看護理論				講義・グループワーク				
8	定期試験(60分)									
教科書、参考書等		ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 第4版, 日総研, 2024 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学<1> 看護学概論, 医学書院, 2025.								
評価方法		定期試験（85%）、課題レポート（10%）、授業中の発言（5%）により総合的に評価する。								
履修上の注意点		各理論家が本の中で提唱している「看護の見方・考え方」を学び、看護実践への活用方法を理解する。また、臨床での活用事例を紹介するので、自らの看護実践に役立てる。								

授業科目		看護過程	分野	専門分野	単位数	1単位	時間数	30時間	開講	前期
科目目標		看護診断プロセスを用いた看護過程を理解する。								
回	主題		授業内容				授業方法		担当教員（講師）	
1	看護過程とは		1) 看護過程の概念 ①看護過程とは何か ②看護過程の目的、5つの構成要素				講義		内部教員	
2	問題解決型思考とは		1) 看護過程の基盤となる考え方 ①看護過程と問題解決方法との関係 ②クリティカルシンキングとは				講義			
3	看護診断とは		1) 看護診断とは ①看護診断過程				講義			
4	看護診断過程を用いた看護過程の実際		1) アセスメント ①アセスメント過程の概要と意義 ②データベースアセスメント ③多様な情報収集源とその活用 ④情報の分析・解釈・推理／推論 ⑤アセスメントの実際 2) 問題の明確化（診断） ①看護問題の概念、種類 ②全体像の把握と関連図の作成 ③関連図・問題リスト作成の実際 3) 看護計画 ①優先順位の決定 ②看護目標を設定する意義と方法 ③看護計画立案の実際 4) 実施 5) 評価 ①評価の視点と意義、方法 6) 看護記録の機能、記載方法				講義・演習			
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15	定期試験(90分)									
教科書、参考書等			系統看護学講座 専門分野 基礎看護学<2> 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2025. NANDA-I 看護診断-定義と分類, 2024-2026, 医学書院, 2026. 看護過程に沿った対症看護病態 生理と看護のポイント, 第5版, 学研メディカル秀潤社, 2025.							
評価方法			授業の取り組み、定期試験、課題レポート（看護過程の記録類）、グループワーク参加により総合的に評価する。							
履修上の注意点			レポート課題は、期日内に提出すること。 （期日内に提出されなければ、評価対象とはならない） 予習・復習を主体的に取り組み、講義聴講や教科書の範囲に留まることなく、参考書など積極的な学習の取り組みを望む。 配布資料は、必ずファイリングしておくこと。							

授業科目	臨床看護技術Ⅰ	分野	専門分野	単位数	1単位	時間数	30時間	開講	前期
科目目標	臨床で遭遇する主要な症状に対する基本的な看護を習得する。								
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）		
1	臨床看護	1) 臨床看護の目的・対象 2) 臨床看護の対象				講義	内部教員		
2	発熱患者の アセスメント	1) 体温について 2) 発熱・解熱の定義 3) 発熱・解熱のメカニズム 4) 発熱の成り行き 5) 発熱・解熱のアセスメント				講義			
3	発熱時の看護	1) 発熱患者の観察ポイント 2) 発熱患者の援助・評価について				講義			
4	電法	温電法・冷電法の実際				校内実習			
5	電法	温電法・冷電法の実際				校内実習			
6	悪心・嘔吐患者の アセスメント	1) 悪心・嘔吐の定義 2) 悪心・嘔吐のメカニズム 3) 悪心・嘔吐の成り行き 4) 悪心・嘔吐アセスメント				講義			
7	悪心・嘔吐時の看護	1) 悪心・嘔吐患者の観察ポイント 2) 悪心・嘔吐時の援助・評価について 3) 嘔吐時の体位、胃部冷電法				講義			
8	吐血・下血患者の アセスメント・看護	1) 吐血・下血の定義 2) 吐血・下血のメカニズム 3) 吐血・下血のアセスメント 4) 吐血・下血の観察ポイント 5) 吐血・下血の援助・評価について				講義			
9	咯血患者の アセスメント・看護	1) 咯血の定義 2) 咯血のメカニズム 3) 咯血のアセスメント 4) 咯血の観察ポイント 5) 咯血の援助・評価について				講義			
10	かゆみのある患者の アセスメント・看護	1) かゆみの定義 2) かゆみのメカニズム 3) かゆみのアセスメント 4) かゆみの観察ポイント 5) かゆみの援助・評価について				講義			
11	疼痛のある患者 アセスメント	1) 疼痛の定義と種類(頭痛/胸痛/腹痛) 2) 疼痛のメカニズム 3) 疼痛の成り行き 4) 疼痛スケール				講義			
12	頭痛時の看護	1) 頭痛のメカニズム 2) 頭痛患者の観察ポイント 3) 頭痛患者の援助・評価について				講義			
13	胸痛時の看護	1) 胸痛のメカニズム 2) 胸痛患者の観察ポイント 3) 胸痛患者の援助・評価について				講義			
14	腹痛時の看護	1) 腹痛のメカニズム 2) 腹痛患者の観察ポイント 3) 腹痛患者の援助・評価について				講義			
15	定期試験(90分)								
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学<2> 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学<3> 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2025. 看護が見える vol.1 基礎看護技術 第2版, メディックメディア, 2024. 看護が見える vol.2 臨床看護技術 第2版, メディックメディア, 2026. 看護が見える vol.1.3 フィジカルアセスメント 第1版, メディックメディア, 2024. 看護過程に沿った対応看護 病態生理と看護のポイント, 第5版, 学研メディカル秀潤社, 2024.							
評価方法		筆記試験、講義・校内実習参加態度等で総合的に評価する。							
履修上の注意点		予習・復習をして講義に臨み、資料は必ずファイリングして毎回持参すること。							

授業科目		フィジカル アセスメント技術Ⅱ	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標		臨床判断に必要な身体的の状態を観察できる知識と技術の習得、アセスメントの思考過程を培う。								
回	主題		授業内容				授業方法		担当教員（講師）	
1	フィジカル アセスメント		フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント				講義		内部教員	
2	生命を維持する フィジカル アセスメント		脳・神経系のアセスメント 1) 意識 2) 脳神経 3) 運動機能 4) 反射 5) 感覚機能 6) 自律神経系				講義			
3			頭頸部のアセスメント フィジカルイグザミネーション 思考過程（アセスメント） 事例による展開				講義・演習			
4										
5			呼吸器系のアセスメント フィジカルイグザミネーション 思考過程（アセスメント） 事例による展開				講義・演習			
6										
7			循環器系のアセスメント フィジカルイグザミネーション 思考過程（アセスメント） 事例による展開				講義・演習			
8										
9	生命維持のための フィジカル アセスメント		腹部のアセスメント フィジカルイグザミネーション 思考過程（アセスメント） 事例による展開				講義・演習			
10										
11			乳房と腋窩 直腸・肛門・生殖器系のアセスメント フィジカルイグザミネーション 思考過程（アセスメント） 事例による展開				講義・演習			
12										
13	動きのフィジカル アセスメント		筋・骨格系のアセスメント 関節可動域の測定 徒手筋力検査 事例展開（食べる/移動/排泄）				講義・演習			
14										
15	定期試験(90分)									
教科書、参考書等			系統看護学講座 専門分野 基礎看護学<2> 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2025. 看護が見える vol.3 フィジカルアセスメント 第1版, メディックメディア, 2024.							
評価方法			定期試験、課題により総合的に評価する。							
履修上の注意点			課題は、期日内に提出すること。期日内に提出されなければ、評価対象とはならない。 講義聴講や教科書の範囲に留まることなく参考書など積極的な学習の取り組みを望む。							

授業科目	地域健康支援論	分野	専門分野	単位数	1単位	時間数	30	開講	後期
科目目標		公衆衛生看護活動の中でも特徴的な集団や地域社会を対象とした公衆衛生看護活動を行うための基礎的能力を身につける。 公衆衛生の理念に基づき、住民の家庭・地域社会生活の場において提供する公衆衛生看護、地域看護援助方法を理解し、援助提供の場に応じた看護職の役割・機能を理解する。							
回	主題	授業内容				授業方法		担当教員（講師）	
1	地域を単位とする看護	地域アセスメント 地域看護診断（健康課題の特定）				講義・演習		外部講師	
2	地域のデータを読み取る	地域の健康と生活 健康課題のアセスメント							
3	地域看護アセスメントと保健事業計画の立案	健康課題のアセスメント 保健事業計画の立案							
4									
5	保健指導の基本と展開	保健指導の主な技術 健康相談、健康診査の展開 家庭訪問による援助の目的、特徴とその機能、展開過程							
6									
7	地域保健福祉計画	地域保健福祉計画の策定と評価				講義		外部講師	
8	健康教育の展開	健康教育の目的と技術 健康教育の展開過程と実際				講義・演習		内部教員	
9									
10									
11	地域組織活動の実際	地域組織活動の概念と組織づくりの方法 セルフヘルプ・グループや住民組織活動とその支援				講義・演習			
12									
13									
14									
15	定期試験（90分）							外部講師 内部教員	
教科書、参考書等		新体系看護学全書 別巻 ヘルスプロモーション, メヂカルフレンド社, 2025. 公衆衛生がみえる2024-2025, メディックメディア, 2025. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<1> 地域・在宅看護の基盤, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<2> 地域・在宅看護の実践, 医学書院, 2025.							
評価方法		定期試験、課題レポート、ワーク参加により総合的に評価する。							
履修上の注意点		講義やワークに参加し、課題は決められた期日までに提出すること。 期日内にレポートを提出しなければ、評価の対象とはならない。							

授業科目		在宅看護概論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	15	開講	後期
科目目標		在宅看護の対象を理解し、在宅看護の役割を学ぶ。								
回	主題		授業内容				授業方法	担当教員（講師）		
1	人々の暮らしと在宅看護		1) 地域・在宅看護の役割 地域・在宅看護の基盤となる考え方 地域・在宅看護に求められる役割 『ラスト・ドクター』				講義 動画視聴	内部教員		
2	地域・在宅看護の対象者		1) 地域包括ケアシステムと地域共生社会 地域包括ケアシステム、地域共生社会 2) 地域・在宅看護の対象者 健康レベルの多様性、地域・在宅看護の場と目的				講義 DVD視聴			
3			1) 地域による多様性 2) ライフステージによる多様性 3) 家族の理解				講義 グループワーク			
4	在宅看護における看護師の倫理		1) 看護師に求められる態度・知識・姿勢 在宅看護における倫理的課題 2) 高齢者に関する法制度 高齢者虐待防止、成年後見制度 3) 権利保障 権利擁護				講義 グループワーク 動画視聴			
5	訪問看護の制度		1) 訪問看護制度の歩み 2) 訪問看護ステーションに関する規程 介護保険法、健康保険法				講義			
6			1) 訪問看護サービスの提供 管理・運営、訪問看護利用までの流れ、費用				講義 DVD視聴			
7	社会資源		1) 社会資源 2) 多職種連携				講義 DVD視聴			
8	定期試験（60分）									
教科書、参考書等			系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<1> 地域・在宅看護の基盤, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<2> 地域・在宅看護の実践, 医学書院, 2025. 国民衛生の動向 2025/2026, 厚生労働統計協会, 2025.							
評価方法			定期試験、課題レポート、確認テスト、ワーク参加により総合的に評価する。							
履修上の注意点			講義やワークに参加し、課題は決められた期日までに提出すること。 期日内にレポートが提出されなければ、評価対象とはならない。							

授業科目		在宅ケアマネジメント論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	15	開講	後期
科目目標		1. ケアマネジメントのプロセスを学ぶ。 2. チームアプローチの意義と方法を学ぶ。 3. ケアシステムづくりに訪問看護が果たす役割を学ぶ。								
回	主題		授業内容			授業方法		担当教員（講師）		
1	ケアマネジメント		介護保険制度 看護師の役割 多職種連携・協働			講義		外部講師		
2	ケアマネジメントの過程		ケアマネジメントに求められる力 在宅ケアマネジメントの過程 アセスメントの視点			講義				
3	ケアプランの実際		居宅サービス計画とは 社会資源について			講義 個人ワーク				
4			居宅サービス計画の立案 発表			グループワーク				
5	退院支援、退院調整		退院支援・退院調整の過程 受容支援、自立支援 多職種との協働			講義				
6			退院前カンファレンス 退院前カンファレンスの準備			講義 グループワーク				
7			退院前カンファレンスの実際			講義 発表				
8	定期試験（60分）									
教科書、参考書等			系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<1> 地域・在宅看護の基盤, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<2> 地域・在宅看護の実践, 医学書院, 2025.							
評価方法			定期試験、課題レポート、ワーク参加により総合的に評価する。							
履修上の注意点			講義やワークに参加し、課題は決められた期日までに提出すること。 期日内にレポートが提出されなければ、評価対象とはならない。							

授業科目	在宅生活援助論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標	1. 在宅看護における援助関係の基本を理解する。 2. 訪問看護に必要な基礎的な看護技術を学ぶ。								
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）		
1	コミュニケーション	1) 療養者や家族を支援する、基本姿勢 2) 障害のある方のコミュニケーションの特徴と支援				講義	内部教員		
2	食生活を支える	1) 在宅生活で食べる行為を支援する 2) 嚥下障害時の介助のポイント				講義			
3		1) 口腔ケア、嚥下訓練 2) 多職種連携				講義			
4	排泄を支える	1) 排泄の意義 2) 在宅である排泄の問題 3) 在宅生活で排泄行為を支援する				講義			
5		1) 尿失禁の種類、病態、要因 2) 尿、便失禁の予防と工夫				講義			
6	移動・移乗を支える	1) 移動の援助の目的と療養者の特徴 2) 在宅環境を整備する視点				講義			
7	身体運動機能低下を予防する	1) 生活の中での移動動作、機能訓練 2) 移動補助用具の種類と選定 3) 転倒の危険因子と予防対策				講義			
8	清潔を支える	1) 清潔習慣を尊重した援助方法 2) 在宅での清潔援助の意味 3) 家にある物で道具を作る（ｸﾞｰﾊﾟｯﾄﾞ）				講義 動画視聴 体験学習			
9		1) 在宅で清潔援助を行う際の注意点 2) 清潔に関する社会資源				講義			
10	薬物療法を支援する	1) 在宅で多い内服事情 2) 内服管理の実際と問題				講義			
11	感染を予防する	1) 在宅で多い感染症 2) 感染症療養者の訪問看護と感染対策				講義			
12	在宅看護過程	1) 在宅看護過程の展開 2) 事例から在宅看護上の問題と計画を考える 3) 発表準備、発表				講義			
13						講義			
14	相談・指導技術	1) 訪問時のマナーと実際 2) 服装や身だしなみ、態度と行動 3) 初回訪問の準備、留意点と実際 4) 面談の実演				講義			
15	定期試験(90分)								
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<1> 地域・在宅看護の基盤, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<2> 地域・在宅看護の実践, 医学書院, 2025.							
評価方法		定期試験、課題レポート、確認テスト、ワーク参加により総合的に評価する。							
履修上の注意点		講義やワークに参加し、課題は決められた期日までに提出すること。 期日内にレポートが提出されなければ、評価対象とはならない。							

授業科目	在宅看護方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	後期		
科目目標	医療依存度の高い療養者と家族への援助と在宅での看取りの看護を学ぶ。										
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）				
1	医療依存度の高い在宅高齢者への看護	地域包括ケアシステムについて 介護、医療ニーズの高い方への在宅看護				講義	外部講師				
2	在宅経管栄養法	在宅経管栄養法の目的、種類と適応条件 『在宅経管栄養法の看護』				講義					
3	在宅中心静脈栄養法（HPN）	在宅中心静脈栄養の目的と適応条件 特徴と種類 『在宅中心静脈栄養法の看護』				講義					
4	在宅尿道留置カテーテル	在宅尿道留置カテーテルの目的と適応条件、 在宅尿道留置カテーテル挿入中の看護				講義					
5		合併症とその対応方法 社会資源の活用 在宅尿道留置カテーテルの看護の実際				講義					
6	疼痛管理	痛みの理解とマネジメント 在宅での麻薬の取り扱い方法 疼痛管理の実際				講義					
7	終末期看護	終末期の身体変化 終末期看護と自宅での看取りの準備				講義					
8	在宅酸素療法	在宅酸素療法の意義としくみ				講義 DVD視聴	外部講師				
9	非侵襲的陽圧換気法 在宅人工呼吸療法	在宅人工呼吸器 小児の在宅人工呼吸器				講義 DVD視聴					
10	排痰に関する看護	排痰に関する看護技術				講義					
11	褥瘡の予防と管理	高齢者における褥瘡の予防と管理				講義	外部講師				
12											
13	褥瘡予防と管理	看護技術				体験学習					
14											
15	定期試験（90分）						外部講師				
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<1> 地域・在宅看護の基盤, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論<2> 地域・在宅看護の実践, 医学書院, 2025.									
評価方法		定期試験、課題レポート、確認テスト、ワーク参加により総合的に評価する。									
履修上の注意点		講義やワークに参加し、課題は決められた期日までに提出すること。 期日内にレポートが提出されなければ、評価対象とはならない。									

授業科目	成人セルフケア援助論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	後期
科目目標	生涯にわたり健康障害のセルフコントロールが必要な成人の看護を理解する。								
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）		
1	成人のセルフケア	1) 成人とセルフケアとは 2) セルフケアの定義				講義	内部教員		
2	患者心理とセルフケア行動	1) 慢性期とは 2) 成人慢性病患者の看護・心理 3) 病みの軌跡、エンパワメント				講義			
3	自己効力感	1) 自己効力理論（バンデューラ） 2) 行動変化ステージ				講義			
4	成人教育学	1) 成人の学び方（アンドラゴジー） 2) 教育的役割（ベナー理論）と コーチングスキル				講義			
5	患者指導技術と教育用教材	1) 患者教育・指導の方法とプロセス 2) 教育用教材				講義			
6	糖尿病看護とセルフケア	1) 糖尿病看護 2) 糖尿病患者のセルフ支援				講義・演習	内部教員		
7	糖尿病看護とセルフケア	1) 糖尿病看護 2) 糖尿病患者のセルフ支援				講義・演習			
8	血糖測定	1) 血糖測定の意義、目的、対象 2) 必要物品と注意事項				講義			
9	血糖測定の実際	血糖測定の実際				演習			
10	血糖測定の実際	血糖測定の実際				演習			
11	慢性疾患患者の実際	1) セルフケア指導の実際				講義・演習			
12	慢性疾患患者の実際	1) セルフケア指導の実際				講義・演習			
13	患者指導・患者教育の実際	1) 透析療法と看護 2) シャント管理				講義・講演			
14	患者指導・患者教育の実際	1) フットケアと看護				講義・講演	外部講師		
15	定期試験（90分）						内部教員 外部講師		
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 成人看護学 〈1〉成人看護学総論, 医学書院, 2025 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 〈6〉内分泌・代謝, 医学書院, 2025 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 〈8〉腎・泌尿器, 医学書院, 2025 ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 第4版, 日総研, 2024							
評価方法		筆記試験、レポート等を総合して行う。							
履修上の注意点									

授業科目		周手術期 看護方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	通年
科目目標		1. 健康状態が急激に変化し生命の危機的状況にある人の各発達段階に合わせた身体的・心理的・社会的変化とその回復過程の特徴が理解できる。 2. 周手術期における看護師の役割を理解し、対象とその家族の生活にもたらされる影響を含め、必要な看護ケアが理解できる。								
回	主題		授業内容			授業方法		担当教員（講師）		
1	周手術期とは		1) 手術とは 2) 周手術期とは			講義		内部教員		
2	周手術期における成人と 高齢者の看護		1) 周手術期の心理過程の特徴 (告知に伴うフィソンの危機モデル) 2) インフォームドコンセントと意思 決定支援の実際について 3) 術前検査							
3										
4	手術前看護① チーム医療における 看護の役割		1) チーム医療における看護の役割 2) 手術オリエンテーション 3) 主体的取り組みへのサポート							
5			4) 手術に対する不安・恐怖への援助 5) 術後疼痛の体験 6) ボディイメージの変容							
6	手術侵襲と生体反応観察とア セスメント		1) 手術侵襲による生体反応 2) 呼吸器系・循環器系・消化器系への影響 (身体のメカニズムと変化) 3) Mooreの回復過程							
7	手術前看護② 手術前の身体準備		1) 手術に向けた身体準備 2) 手術室への入室準備							
8	手術中看護① 手術室看護師の役割		1) 手術室とは 2) 手術室看護師の役割 2) 手術中の安全・安楽への援助			講義		内部教員		
9	手術中看護② 麻酔の特徴とで手術を受ける 患者の看護		1) 手術中合併症の予防と看護の実際 2) ガウンテクニック			講義 校内実習				
10										
11	手術後看護① 術後の病床管理 術直後の観察		1) 術後の病床管理(術後ベッド準備) 2) 術直後の観察 2) 創傷治癒過程			講義		内部教員		
12	手術後看護② 術後合併症の発生のメカニズ ムと症状・看護		1) 術後合併症の予防 2) ドレーン管理(胸部、腹部など)			講義				
13	手術後看護③ 回復期から退院までの看護師 の役割		1) 術後の生活援助 2) 術後障害への対応 3) 手術による変化・喪失の受容支援 4) 新たな健康管理能力の獲得			講義				
14	周手術期における子どもと家 族への看護		1) 子どもの手術の特徴、治療、予後 2) 子どもと家族への援助			講義		内部教員		
15	定期試験（90分）							内部教員		
教科書、参考書等			系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院, 2025. 成人看護学 周手術期看護論 第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2023. 高齢者と成人の周手術期看護 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版, 医歯薬出版株式会社, 2024. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学<1> 小児看護学概論 小児臨床看護総論, 医学書院, 2025.							
評価方法			定期試験、課題レポートなどを総合して行う。							
履修上の注意点			予習または、事前に課題を提示しますので、各自の学習をしっかりと行ってください。 授業の中で、既習の確認も行いますので、解剖生理、基礎看護技術のテキストも持参して下さい。							

授業科目	リハビリテーション看護 方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標	リハビリテーション過程にある対象の看護を理解する。								
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）		
1	リハビリテーション 看護とは	リハビリテーションの定義と概念 ADL評価ツール				講義	外部講師		
2	ADL自立への援助	ADL動作の分析				講義 グループワーク			
3									
4	リハビリテーションの 特徴	運動器系、脳神経系疾患患者の リハビリテーション				講義			
5		急性期合併症予防の支援 廃用症候群について				講義			
6	合併症の予防	深部静脈血栓症予防 （弾性ストッキングの着用・包帯法）				講義 演習			
7	活用できる社会資源	介護保険で利用できるサービス				講義			
8	関節拘縮の予防と評価	関節可動域（ROM）測定・評価 徒手筋力測定・評価				講義 校内実習	外部講師		
9									
10	運動療法の実践	ポジショニング 関節可動域運動 松葉杖・杖の処方と歩行方法				講義 校内実習			
11									
12	リハビリテーションチームメ ンバーの役割	多職種で働くということ				講義 グループワーク	外部講師		
13									
14	心臓リハビリテーション	チーム医療で心臓病を支える				講義	外部講師		
15	定期試験（90分）						外部講師		
教科書、参考書等		系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護, 医学書院, 2025.							
評価方法		定期試験で評価する。							
履修上の注意点		リハビリテーションの経過に応じ、共通の目標に向けた複数の専門職によるアプローチの方法を学ぶ。臨地実習で実践できるように積極的に授業に参加すること。							

授業科目		救急看護 方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	前期		
科目目標		生命の危機状態にある対象の看護を理解する。										
回	主題		授業内容				授業方法		担当教員（講師）			
1	救急医療概念		救急看護とは				講義		内部教員			
2			救急医療体制と救急看護の場				講義					
3			救急看護と法的・倫理的側面				講義					
4	救急看護の対象の理解		救急患者の特徴 救急患者家族の特徴				講義					
5	救急患者の観察と アセスメント		全身と外観の観察と緊急検査				講義					
6			意識障害への対応				講義					
7			呼吸障害への対応				講義					
8			ショック・循環障害への対応				講義					
9	救急処置と看護		心肺停止状態への対応 一次救命処置 二次救命処置				講義 校内実習					
10												
11	こどもの救命処置		1）小児救急の概要 2）小児の救急トリアージについて 3）小児の心肺蘇生（一次救命処置）				講義 校内実習		内部教員			
12	外傷への対応		外傷の種類 外傷時の看護				講義		外部講師			
13	ME機器の原理と実際		輸液ポンプ・シリンジポンプ 人工呼吸器				講義 校内実習		外部講師			
14												
15	定期試験（90分）								外部講師 内部教員			
教科書、参考書等			系統看護学講座 別巻 救急看護学, 医学書院, 2025. 緊急度を見抜く！バイタルサインからの臨床推論, 医学書院, 2024. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学<1> 小児看護学概論 小児臨床看護総論, 医学書院, 2025.									
評価方法			定期試験、課題レポートにより総合的に評価する。									
履修上の注意点			課題やレポート提出は決められた期限までに提出すること。提出できない理由がある場合は必ず担当教員へ相談に来ること。 校内実習は指定された服装・身だしなみで参加すること。 必ず予習・復習を行うこと。									

授業科目	がん看護方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	後期
科目目標	がん患者の告知後のサポート、治療上のケア、緩和ケア、痛みのコントロール、家族ケアを理解する。								
回	主題	授業内容				授業方法		担当教員（講師）	
1	がんとは	がんの動向 がん患者として生きていくこと				講義		外部講師	
2	がん告知に対する心理的反応	がん告知後のサポート				講義			
3	化学療法と看護	化学療法に伴う看護				講義 グループワーク			
4	放射線療法と看護	放射線療法に伴う看護				講義			
5	緩和ケアとは	緩和ケアとチーム医療				講義		外部講師	
6	がん患者の心理 疼痛緩和法	心理・社会的ケア 心理的ケア（リラクゼーション）				講義			
7	緩和ケアと症状 疼痛緩和法	緩和ケアにおける全人的苦痛の捉え方 緩和ケア（マッサージ）				講義 校内実習		外部講師	
8	緩和ケアと症状 疼痛緩和法	緩和ケアにおける全人的苦痛の捉え方 がん性疼痛のマネジメント 死の受容過程				講義			
9	人間にとっての死	スピリチュアルケアについて				講義		外部講師	
10	患者の悲嘆へのケア	家族ケアについて				講義			
11	危篤とは 臨終・死亡時の看護	危篤・終末時の看護 死亡時の看護 死亡時の処置 エンゼルケアチームの役割				講義 校内実習			
12	がん患者の看護①	排泄経路変更の看護 ストーマ造設患者について				講義		外部講師	
13									
14	がん患者の看護②	排泄経路変更に伴う合併症の看護 ストーマ造設後の合併症				講義 校内実習			
15									
16	定期試験（90分）							外部講師	
教科書、参考書等		系統看護学講座 別巻 がん看護学, 医学書院, 2026. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア, 医学書院, 2026. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学<4> 血液・造血器, 医学書院, 2025. NANDA-I看護診断 2024-2026, 医学書院, 2026.							
評価方法		定期試験で評価する。							
履修上の注意点		各自が資料を熟読し、課題を確実にこなし参加する。							
		校内実習は、学校指定の服装で臨む。							

授業科目	薬物看護方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	後期
科目目標	1. 看護実践に生かす臨床薬理について理解し、薬物治療を受ける対象の各発達段階において科学的根拠のある看護を提供するための知識について理解する。 2. 医薬品を適切かつ安全に使うための技術を修得する。								
回	主題	授業内容				授業方法		担当教員（講師）	
1	看護業務に必要な薬の基礎知識	1) 看護業務に必要な薬の基礎知識				講義		内部教員	
2	与薬の基礎知識	1) 薬物とは 2) 薬物の取り扱い 3) 薬物の体内動態と薬効 4) 与薬の指示と情報、薬物の保管				講義			
3									
4	看護実践に生かす臨床薬理とは	1) 薬剤投与場面における医療従事者の役割 2) 特に注意する薬剤や投与方法 3) 看護実践に生かす臨床薬理 4) 指示書、処方箋、添付文書の読み方 5) 使用時の留意点 ①依存 ②耐性 ③催奇形性 ④授乳時の移行				講義			
5									
6									
7									
8	注射と安全	1) 注射と法律 2) 注射の利点と欠点 3) 安全・安心な注射のために				講義			
9	薬物療法を受ける対象の看護① 子どもへの与薬と看護	1) 薬物の吸収、体内分布、代謝 2) 小児の薬用量				講義		内部教員	
10		1) 小児の輸液管理				講義・演習			
11		1) 小児の内服・吸入・座薬 2) 小児の鎮静剤使用について				講義			
12	薬物療法を受ける対象の看護②	1) 成人への薬理作用				講義		内部教員	
13	成人への与薬と看護	2) 成人の薬物療法に対する看護師の役割 ①周手術期における薬物療法 ②周手術期における症状緩和に向けた薬物療法に対する看護師の役割				講義・演習			
14	薬物療法を受ける対象の看護③ 高齢者への与薬と看護	1) 高齢者の心身の特徴と薬理作用 2) 高齢者の薬物療法に対する看護師の役割				講義・演習		内部教員	
15									
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進<3> 薬理学, 医学書院, 2025. クイックマスター 薬理学 新訂版, サイオ出版, 第3版, 2023. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学<1> 小児看護学概論 小児臨床看護総論, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院, 2025.							
評価方法		授業の取り組み、課題レポートなどを総合して行う。							
履修上の注意点		既習の基礎看護学である診療補助技術は復習して臨む。 また、各発達段階における身体的特徴についても復習し、授業に参加する。							

授業科目	看護過程演習	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	後期
科目目標	小児期・成人期・老年期の特徴的な疾患を持った対象の看護を考える。								
回	主題	授業内容				授業方法		担当教員（講師）	
1	治療を必要とする患児の看護を考える	小児に特有な疾患の看護を考える 疾患の理解と必要な看護				講義 ワークシート		外部講師	
2		対象に合わせてた看護を考える				PBL 課題			
3		対象に合わせてたより良い看護を考える				講義 グループワーク			
4	看護の実際	対象に合わせた看護の実際				演習			
5	治療を必要とする成人の看護を考える	手術を受ける成人の看護を考える 疾患の理解と必要な看護				講義 ワークシート		内部教員	
6		手術を受ける対象の看護を考える				講義 グループワーク			
7		対象に合わせた看護の実際				PBL 課題			
8		対象に合わせた看護の実際				講義 グループワーク			
9	看護の実際	対象に合わせた看護の実際				演習			
10	治療が必要な高齢者の看護を考える	高齢者に起こしやすい疾患の看護 加齢に変化と疾患について				講義 ワークシート		内部教員	
11		高齢者に起こしやすい疾患の看護 疾患の理解と必要な看護				講義 ワークシート			
12		対象に合わせた看護を考える				PBL 課題			
13		対象に合わせた看護の実際				講義 グループワーク			
14	看護の実際	対象に合わせた看護の実際				演習			
15		対象に合わせた看護の実際				演習			
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 小児看護学<1> 小児看護学概論 小児臨床看護総論, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院, 2025. 成人看護学 周手術期看護, ヌーヴェルヒロカワ, 2023. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院, 2025.							
評価方法		課題レポートと演習の実際を評価する。							
履修上の注意点		レポート課題は、期日内に提出すること。 （期日内に提出されなければ、評価対象とはならない） 予習・復習を主体的に取り組み、講義聴講や教科書の範囲に留まることなく、参考書など積極的な学習の取り組みを望む。 配布資料は、必ずファイリングしておくこと。							

授業科目	老年生活援助論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標	高齢者の生活機能を整える看護を理解する。								
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）		
1	高齢者のアセスメント	高齢者のアセスメントの基本 高齢者総合機能評価（CGA）				講義	内部教員		
2	高齢者の生活を支える看護	高齢者疑似体験モデルを使った体験				講義 体験学習 グループワーク			
3									
4		基本動作の援助、環境整備				講義 グループワーク			
5		コミュニケーションの援助							
6		食生活、食事の援助							
7		排泄の援助							
8		清潔・整容の援助 セクシュアリティに対する援助							
9		転倒・転落予防の援助							
10		休息・活動、睡眠の援助							
11	高齢者のヘルスプロモーション	老年期のヘルスプロモーション				講義			
12		介護予防とヘルスプロモーション							
13	様々な生活の場での高齢者の看護	高齢者虐待の対策と防止				講義	外部講師		
14									
15	定期試験（90分）						内部教員 外部講師		
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院, 2025.							
評価方法		定期試験、課題レポート、確認テスト、ワーク参加により総合的に評価する。							
履修上の注意点		講義・体験学習・グループワークに参加し、決められた期日内にレポートを提出すること。 （期日内にレポートが提出されなければ、評価対象とはならない。）							

授業科目		老年看護方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	通年
科目目標		さまざまな健康状態にある高齢者の看護を理解する。								
回	主題		授業内容				授業方法		担当教員（講師）	
1	高齢者が起こしやすい症状のアセスメントと看護		老年症候群 熱中症 脱水症 フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム				講義		内部教員	
2	高齢者に特有な疾患に対するアセスメントと看護		白内障				講義			
3			パーキンソン病							
4			骨粗鬆症 骨折（大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折）				講義 演習			
5										
6			肺炎				講義			
7	認知症高齢者の看護		加齢による病態と要因 認知機能の評価 予防治療、療法的アプローチ				講義 グループワーク		外部講師	
8			加齢による病態と要因 認知機能の評価 予防治療、療法的アプローチ							
9	摂食・嚥下障害のある高齢者の看護		高齢者の摂食・嚥下機能の特徴 脳神経疾患患者の摂食・嚥下訓練				講義		外部講師	
10			嚥下障害のある高齢者の食事介助				校内実習			
11			口腔ケアの基本と援助方法				校内実習			
12	排泄障害のある高齢者の看護		尿失禁の病態と要因 アセスメント				講義		外部講師	
13			排泄能力の変化に応じた援助① 失禁の予防と対策 皮膚障害の予防と対処				講義 演習			
14			排泄能力の変化に応じた援助② おむつの選び方・当て方				講義 演習			
15	定期試験（90分）								内部教員 外部講師	
教科書、参考書等			系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院, 2025.							
評価方法			定期試験、課題提出の状況等により総合的に評価する。							
履修上の注意点			講義・校内実習・グループワークに参加し、決められた期日以内にレポートを提出すること。 期日以内にレポートが提出されなければ、評価対象にはなりません。							

授業科目	小児系疾病 治療論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標	小児疾患の病態・症状・治療・検査を理解する。								
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）		
1	新生児の疾患	分娩損傷、適応障害、低出生時の疾患、 染色体異常、先天異常				講義	外部講師		
2	代謝性疾患と内分泌疾患	代謝性疾患 下垂体、甲状腺および副甲状腺、副腎疾患				講義			
3	免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患	アレルギー性疾患、原発性免疫不全症、 リウマチ性疾患				講義			
4	感染症	ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症				講義			
5	呼吸器疾患	喘息、上気道の疾患、気管支・肺・胸膜疾患				講義			
6	循環器疾患	先天性心疾患、川崎病				講義			
7	消化器疾患	口腔疾患、食道・胃・十二指腸・ 大腸の疾患、腹膜の疾患、肝臓・ 胆道の疾患、急性乳用児下痢症、急性胃腸炎				講義			
8	血液・造血器疾患	貧血、出血性疾患、好中球の量的質的異常				講義			
9	悪性新生物	造血器腫瘍、脳腫瘍				講義			
10	腎・泌尿器および生殖器疾患	糸球体疾患、急性・慢性腎疾患 生殖器・外生殖器疾患				講義			
11	神経疾患	けいれん性疾患、急性神経疾患、筋疾患				講義			
12	運動器疾患、 皮膚疾患、眼疾患	先天性股関節脱臼、骨折 湿疹・皮膚炎群 屈曲異常、斜視				講義			
13	耳鼻咽喉疾患と 精神疾患	耳・鼻・咽頭・喉頭の疾患				講義			
14	事故と外傷	不慮の事故総論 誤飲・誤嚥、熱傷、熱中症				講義			
15	定期試験（90分）								
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 小児看護学<2> 小児臨床看護各論, 医学書院, 2026.							
評価方法		定期試験で評価する。							
履修上の注意点		限られた講義の中で、専門的な用語、疾患、検査・治療などを学びます。 わからない内容は積極的に質問しましょう。							

授業科目	小児看護方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	後期
科目目標	子どもとその家族に必要な看護の方法を学び技術を習得する。								
回	主題	授業内容				授業方法		担当教員（講師）	
1	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護の方向性①	授業概要 1) 病気と診療・入院が子どもと家族に与える影響について考える				講義		外部講師	
2	子どもの最善の利益を考えた関わり・支援	1) 心理的混乱に対する心の準備 ・プレパレーション・ディストラクションの流れと実際				講義		外部講師	
3	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護の方向性②	1) 慢性的な疾患の・障害がある子どもと家族への看護 ・受容への支援 ・他職種・地域連携、生活援助				講義・演習		外部講師	
4	感染症と隔離／活動制限が必要な子どもと家族への看護	1) 小児期特有な感染症の特徴、観察の視点、隔離・活動制限された子どもへの援助				講義			
5	外来における子どもと家族へ看護	1) 小児科外来の特徴 2) 小児科外来の看護に求められること 3) 子どもの虐待について 4) 診察の介助				講義			
6	子どものアセスメント	1) アセスメントに必要な基礎知識 ・バイタルサイン測定 ・身体計測				講義・演習			
7	急性症状のある子どもと家族への看護	1) 急性的な経過をたどる子どもの症状と看護 ・痛み ・発熱・けいれん ・下痢と嘔吐 ・脱水 ・呼吸困難 2) 日常生活援助技術 ・食事の援助 ・清潔の援助 ・移動の技術				講義			
8									
9									
10									
11	障害のある子どもと家族の看護	1) 医療的ケア・発達の支援が必要な子どもと家族の看護 ・子どものセルフケア行動の促進 ・他職種連携（学校・保育所での支援）				講義 ゲストスピーチ			
12	出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護	1) ハイリスク新生児の特徴 ・集中ケアにおける援助 ・親子・家族関係確立への支援				講義		外部講師	
13	エンド・オブ・ライフにある子どもと家族の看護	1) 代表的な疾患とその特徴、病態、治療法、治療により生じる影響、予後、子どもと家族への援助				講義		外部講師	
14	特別な状況にある子どもと家族への看護	1) 子どもと災害 ・子どもと家族への影響 ・支援を必要とする子どもと家族への看護				講義			
15	定期試験（90分）							外部講師	
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 小児看護学<1> 小児看護学概論 小児臨床看護総論, 医学書院, 2025. ※参考図書は講義時に提示する。							
評価方法		定期試験 (85%)、課題レポート (15%) により総合的に評価する。							
履修上の注意点		本科目は「小児疾病治療論」の授業内容と並行して学習が進むため、子どもの形態機能、成長・発達、疾患の病態生理、治療などの予習・復習をして授業に臨んでください。授業の理解度によっては、講義の内容や順番が変更になる場合があります。							

授業科目	周産期生理異常論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標	妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的变化と、異常な経過について理解する。								
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）		
1	妊娠期における看護	妊娠の生理 胎児の発育とその生理				講義	外部講師		
2	妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント	妊娠と診断 妊娠期に行う検査 胎児の発育と健康状態の診断				講義			
3	分娩期における看護	分娩の経過 産婦と胎児の健康状態				講義			
4	新生児期および産褥期における看護	新生児の評価 新生児の健康状態				講義			
5	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常	ハイリスク妊婦、妊娠疾患、 妊娠持続期間の異常、子宮外妊娠				講義			
6									
7		産道の異常 娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常 分娩時の異常 産科処置と産科手術				講義			
8									
9									
10	新生児の異常	新生児仮死 分娩外傷 低出生体重児 高ビリルビン血症				講義			
11									
12	産褥の異常と看護	子宮復古不全、産褥期の発熱、 産褥血栓症、精神障害				講義			
13		感染症の褥婦 乳房トラブル 児を亡くした褥婦と家族				講義			
14	精神障害合併妊婦と家族	不安症/不安障害、強迫症/強迫性障害、 統合失調症、抑うつ障害、摂食障害、 産後うつ病、産褥精神病				講義			
15	定期試験（90分）								
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 母性看護学<2> 母性看護学各論, 医学書院, 2025.							
評価方法		定期試験で評価する。							
履修上の注意点		マタニティサイクル各期における正常および異常な経過について学習します。健康状態のアセスメントに必要な情報とアセスメントの視点を理解しましょう。							

授業科目	母性看護方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	通年			
科目目標	正常経過にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護と保健指導の基本的知識を理解する。											
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）					
1	妊婦の看護と保健指導	妊娠による母体の変化 妊婦の健康管理 妊婦と家族への看護 妊婦への保健指導 など				講義	内部教員					
2												
3												
4												
5												
6	異常な経過にある妊婦の看護	切迫流産・切迫早産の妊婦への看護 妊娠高血圧症候群などの妊婦への看護など				講義						
7	産婦・褥婦の看護と保健指導	分娩時の母体の変化 分娩各期における産婦の看護・保健指導 分娩後の観察と看護 など				講義 V T R 視聴						
8												
9												
10												
11	異常な経過にある産婦の看護	異常出血・異常分娩時の産婦への看護 胎児機能不全の状態にある産婦の看護 胎児心拍陣痛図（NST・CTG）判読など				講義						
12												
13	異常な経過にある褥婦の看護	子宮復古不全の状態にある褥婦の看護 母乳分泌異常の状態にある褥婦の看護 など				講義						
14	周産期医療のシステムと母子保健施策	周産期医療のシステム 母子保健に関連する法律 子育て支援・DV防止などの施策など				講義						
15	定期試験（90分）											
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 母性看護学<1> 母性看護学概論, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学<2> 母性看護学各論, 医学書院, 2025. 母性看護学③ 母性看護技術 第6版, メディカ出版, 2026.										
評価方法		定期試験（85%）、課題レポート（15%）により総合的に評価する。										
履修上の注意点		妊娠・分娩・産褥期の観察・アセスメントと看護を学びます。母性看護学実習では産褥入院中の母子を受け持ちます。個別性に応じた観察・看護ができるよう、しっかりと知識を習得しましょう。授業には予習・復習をして臨み、配布資料は必ずファイリングして保管すること。										

授業科目	周産期看護技術	分野	専門分野	単位数	1	時間数	15	開講	後期			
科目目標	周産期の母子に対する看護の基本的知識・技術を習得する。											
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）					
1	母性の看護技術	妊婦への看護技術 （レオポルド触診法、浮腫の観察、診察介助法、間欠的胎児心拍数聴取、胎児心拍数陣痛図（NST・CTG）など）				講義 DVD視聴	内部教員					
2		褥婦への看護（子宮底高の測定・観察、外陰部・悪露の観察、胎盤計測、乳房・乳頭の観察、帝王切開後の観察、産後うつ・家族計画など）										
3		新生児への看護 （新生児とは 出生直後の観察・計測・看護）										
4	新生児の健康と発育のアセスメント・看護技術	新生児の観察と看護 （沐浴・おむつ交換など） 生理的体重減少 生理的黄疸 原始反射・成熟徴候 新生児の検査（スクリーニング検査）など 沐浴 校内実習				講義 DVD視聴 校内実習						
5												
6												
7	新生児の健康問題に対する看護	先天異常 新生児の呼吸障害（新生児一過性多呼吸・呼吸窮迫症候群・胎便吸引症候群） 高ビリルビン血症・ビタミンK欠乏症 低出生体重児・新生児仮死 など				講義						
8	定期試験（60分）											
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 母性看護学<2> 母性看護学各論, 医学書院, 2025. 母性看護学③ 母性看護技術 第6版, メディカ出版, 2026.										
評価方法		定期試験、講義・校内実習の参加等を総合的に評価する。										
履修上の注意点		実習で実施する重要な看護技術および学習すべき知識を学びます。 根拠に基づいた技術の習得を目指しましょう。 短期間で非常に多くの知識を学ぶため、予習・復習をして授業に臨むこと。 配布資料は必ずファイリングして保管すること。										

授業科目		精神・神経系 疾病治療論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	15	開講	前期
科目目標		精神疾患の病態・治療・検査を学ぶ。								
回	主題		授業内容				授業方法		担当教員（講師）	
1	精神科で出会う人々		日本の精神医療の現状 精神障害の診断と分類				講義		外部講師	
2	主な精神疾患と障害の特徴		統合失調症				講義			
3			気分（感情）障害 うつの3大症状と診断基準 躁状態の諸症状				講義			
4			神経症性障害、ストレス関連障害、 身体表現性障害				講義			
5			生理的障害および身体的要因に関連した 行動症候群 摂食障害				講義			
6			器質性精神障害 認知症・症状精神病				講義			
7			精神作用物質使用による精神・行動の障害 アルコール症				講義			
8	定期試験(60分)									
教科書、参考書等			系統看護学講座 専門分野 精神看護学<1> 精神看護の基礎, 医学書院, 2025.							
評価方法			定期試験で評価する。							
履修上の注意点										

授業科目		こころの看護 方法論	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標		こころの健康問題・心理社会的反応に対する対応方法を理解する。								
回	主題		授業内容			授業方法		担当教員（講師）		
1	関係の中の人間		全体としての家族			講義		外部講師		
2	関係の中の人間		クライアントとしての家族			講義				
3	関係の中の人間		人間と集団 グループのダイナミクス			講義				
4	関係の中の人間		人間と集団 グループのダイナミクス			講義、DVD				
5	ケアの人間関係		ケアの前提 ケアの原則			講義				
6	ケアの人間関係		ケアの原則 ケアの方法 コミュニケーション技術			講義、演習				
7	ケアの人間関係		プロセスレコードとは			講義、演習				
8	ケアの人間関係		プロセスレコードとは			講義				
9	ケアの人間関係		患者―看護師関係 信頼関係の大切さ 患者―看護師関係成立のための援助技術			講義				
10	ケアの人間関係		患者―看護師関係 看護理論			講義				
11	リエゾン精神看護		身体疾患をもつ患者の精神保健			講義				
12	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス		看護という職業			講義				
13	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス		看護師の不安と防衛 感情労働としての看護			講義				
14	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス		看護師の感情ワーク 感情労働の代償と社会 レジリエンスを高める			講義				
15	定期試験(90分)									
教科書、参考書等			系統看護学講座 専門分野 精神看護学<1> 精神看護の基礎, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学<2> 精神看護の展開, 医学書院, 2025.							
評価方法			定期試験（80%）、課題レポート(20%)により総合的に評価する。							
履修上の注意点										

授業科目	こころの看護論 演習	分野	専門分野	単位数	1単位	時間数	30時間	開講	後期	
科目目標	こころの健康障害をもつ人の看護の方法を学ぶ。									
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）			
1	入院治療と看護の 展開	1) 治療的環境をつくる 2) 安全を守る				講義	外部講師			
2		3) 緊急事態に対処する 自殺・暴力・無断離院				講義				
3		4) リスクマネジメント				講義				
4		5) 回復を助ける 精神科におけるリハビリテーション 社会生活技能訓練（S S T）				講義				
5	精神科看護における身体ケ アの方法	1) 服薬治療に関わる看護 2) 電気けいれん療法の看護				講義				
6		3) 身体合併症に関する援助 4) 患者の回復段階ごとの身体的援助				講義				
7		5) 睡眠の援助 6) 自傷行為や身体症状を訴える患者の 援助				講義				
8	精神障害をもつ人の看護の 実際	1) 入院治療の意味を理解する				講義				
9		2) 患者のアセスメント				講義				
10		3) 精神症状と看護 思考・感情・意欲・知覚の障害 意識・記憶とその障害				講義				
11		4) 疾患と看護 ①統合失調症（急性期）（慢性期） ②気分障害（うつ）、気分障害（そう） ③不安障害・適応障害・摂食障害 ④パーソナリティ障害・アルコール症 ⑤認知症				講義 演習				
12										
13										
14	地域における 精神看護	障害者の雇用の促進等に関する法律 就労支援事業について				講義	外部講師			
15	定期試験 (90分)						外部講師			
教科書、参考書等		系統看護学講座 専門分野 精神看護学<1> 精神看護の基礎, 医学書院, 2025. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学<2> 精神看護の展開, 医学書院, 2025.								
評価方法		定期試験で評価する。								
履修上の注意点										

授業科目		医療安全	分野	専門分野	単位数	1	時間数	30	開講	後期
科目目標		医療システムの中の危険因子を知り、看護事故防止のための知識・技術を習得する。								
回	主題		授業内容			授業方法		担当教員（講師）		
1	医療事故と看護業務		1) 医療事故とは 2) 医療行為との関連の有無 3) 自己の視点で看護業務を理解する			講義		内部教員		
2	看護事故の構造		1) 看護業務と事故の分類 2) 2種5群の看護事故における事故防止			講義				
3	看護事故防止の考え方		1) 間違いによる事故を防ぐ3ステップ 2) 危険の予測に基づく事故防止の2ステップ 3) 事故発生後の障害拡大の防止			講義				
4			DVD「KYTトレーニング第1巻」 事例検討			講義 DVD視聴				
5	診療の補助・療養上の世話の 事故防止		①注射業務と事故防止 ②注射業務に用いる機器での事故防止 ③輸血業務と事故防止 ④内服与薬業務と事故防止 ⑤経管栄養業務と事故防止 ⑥チューブ管理と事故防止 ⑦転倒・転落事故防止 ⑧摂食中の窒息・誤嚥事故防止			グループワーク		内部教員		
6										
7										
8										
9			発表準備			グループワーク 発表				
10			発表 まとめ							
11										
12	インシデント		過去の事例から振り返る			グループワーク		外部講師		
13	院内での医療安全対策の実 際		看護・医療事故への対処及び分析方法リスク分析の 意義と手技			グループワーク発表				
14			R C A（根本原因分析）			グループワーク発表				
15	定期試験（90分）							内部教員 外部講師		
教科書、参考書等			系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践<2> 医療安全, 医学書院, 2026.							
評価方法			定期試験、グループワーク参加度、課題レポートにより総合的に評価する。							
履修上の注意点			提出物は提出期限厳守とする。							